

優秀賞

静岡県立東部特別支援学校 高等部

「令和元年度高等部・ 訪問教育 高等部体育祭」

学校紹介

本校は、肢体不自由障がいのある児童・生徒の教育をする特別支援学校である。小学部、中学部、高等部の3学部に分かれており、各学部では、個々の実態に応じたコースに分かれ、一人ひとりの力を発揮する指導、支援をしている。今年で創立53年になり、昨年9月に新校舎が完成し、今年度は新しい体育館で初めて各学部の体育祭を実施した。

取組概要等

【取組概要】

本校の高等部では、来年に控えた東京2020大会への参画意識や、スポーツへの興味・関心を高める目的で計画した。

【取組のねらい】

体育でオリンピック・パラリンピックの精神を学び、「私たちだからできるチャレンジ～東京2020へ届け～」としてスローガンに掲げた。準備段階から生活単元学習や総合的な学習の時間等でも様々なチャレンジをしてきた。集団表現「ダンス☆マス」では、少人数でも見応えのあるパフォーマンスになるよう、巨大な手具作りから始めた。

【創意工夫した点】

生徒が、和紙を藍色に染めた巨大な帯を縦横交互に通し、東京2020エンブレムにも使われた組市松紋を織り上げるパフォーマンスやオリンピックのシンボルやパラリンピックのスリーアギトスを表現した帯を制作し、車いすで移動しながら2020を形作るパフォーマンスを実施した。

【取組結果や効果】

体育祭テーマを「東京2020大会を盛り上げよう」に設定することで、準備から本番まで生徒の自信に満ちた表情や一人ひとりのチャレンジする姿が見られ、学部全体が一致団結することができた。

【来年度以降の展開予定など】

来年度においても本テーマに即したプログラムの計画をすることで、生徒の主体的活動を引き出し、生涯にわたってスポーツに親しむ態度の育成につなげていきたいと考えている。

プログラムの様子



縦帯担当の生徒がリズムに合わせ、帯のついた棒を上下に動かす。車いすを自操する生徒が正面左側から右へ進み組市松紋を編む様子。



リボンを運ぶ生徒が、車いすで移動しながら各ポイントで待つ生徒にリボンを届け、2020を形作る様子。



リボンで形作った2020・織り上げた組市松紋、最後に訪問教育の生徒が京紙で飾り付けたスローガンが掲げられた。



組市松紋に使う和紙は、自立コースの生徒が藍色に染め、生活コースの生徒がアイロンをかけて織りやすい帯に仕上げた。

東京2020アスリート委員会からのコメント

事前学習の時間を活用して、ツールの作成を始めとしたさまざまなチャレンジを行ったこと、特に巨大な和紙を使い組市松紋を織り上げるパフォーマンスは、さすが高等部の生徒さんと言えるプログラムだと思いました。

受賞のコメント

生徒達は、今回の受賞で、一層の自信と誇りを持ち、今後様々な活動において、益々意欲的に取り組むと思います。教師のチームワークも高まり、東京2020大会に向けて、充実した活動ができたことに感謝致します。